

老後リアル 認知症と生きる

③

和風の門構えに塀に囲まれた2階建ての瓦屋根…。三島市の閑静な住宅街にたたずむ建物は看板がなければ介護施設だと気付かないだろう。通常のデイサービスは定員が数十人規模だが、この古民家を改装した認知症対応型通所介護の施設「デイサービス井福来(いぶき)」に通う利用者はわずか12人。認知症に合わせた工夫が随所に見られる。スタッフは旅館の仲居のように作務衣(さむえ)をまとい、居間などはそのまま活用。家庭的な雰囲気の出迎にこだわった。自宅から出たがらず介護施設の利用を拒否しがちな認知症の人に「自然に通える場所でありたい」と配慮し

尊厳重視の特化型デイ

民家を改装した認知症対応型
デイサービス。家庭的な雰囲気
を重視する
＝1月中旬、三島市内



た。
運営事業所の統括マネージャ
渡部美保子さん(49)は約20
年間にわたり認知症ケアの現

場に立ち続けてきた。「認知
症の人はこれまでの生活の延
長たと受け入れやすいが、場
所が変わったり大勢の人の中

で過こしたりすると不安にな
りがち。顔なじみだと安心感
が生まれる」と言う。

通常のデイサービスは「レ
クリエーションなどで子ども
扱いされるのが嫌だ」と抵抗
感を持つ高齢者も男性を中心
に多い。井福来は利用者を「
○さま」と敬称で呼び、会話
も丁寧語で徹底。「認知症の
○さん」と認識するのでは
なく、一人の人間としての尊
厳を重視して接する。

ただ、介護事業所の経営は
認知症に配慮するほど、大規
模化や効率化を求める国の動
向と相いれない。認知症の人
を多く受け入れる認知症対応
型デイや地域密着型デイは10
年ほど前は市内に20カ所以上
あったが、介護報酬の改定で
採算性が下がって撤退が相次

役立つ介護保険サービスは？



「認知症ケアに役
立つ介護保険サービ
スとは?」。こちら
のQRコードから読
むことができます。

ぎ、現在は半分以下になった。
介護施設に通うのをちゅうち
よする認知症の家族に苦勞し
て離職する現役世代も目立
ち、介護保険が機能していな
いという見方もある。

「業務効率だけでなく一人
一人に目配せできる介護も
必要」と渡部さん。ICT導
入も進めつつ「その人の経歴
を踏まえて言葉にしない思
いを想像し、やりがいのある
活動を見つけてのが私たちの
仕事ではないか」と受け止め
る。

低採算でも個別に配慮